

【現場視察調査報告書】

委 員 会 名	都市環境委員会
委 員 名	【委員】 9名 森喜彦委員長、川村奈緒美副委員長、長谷川順子委員、古里幸太郎委員、九鬼ともみ委員、高橋剛委員、中島正寿委員、及川賢一委員、福安徹委員
日 程	令和5年（2023年）8月23日（水）
詳 細	
視 察 先	夕やけ小やけふれあいの里
視 察 内 容	夕やけ小やけふれあいの里について
概 要	夕やけ小やけふれあいの里は平成8年4月に農業知識の普及と地域振興を目的に「夕やけ小やけ文化農園」として開園し、平成13年4月から観光レクリエーション施設として用途を変更して、「夕やけ小やけふれあいの里」と名称の変更を行った。 童謡「夕焼小焼」の作詞家中村雨紅の故郷であることが施設名称の由来となっており、今なお、北浅川の清流と日本の里山の原風景を残す環境にある。 本施設は宿泊、飲食施設を有し、キャンプ、バーベキューのアウトドアレジャーの提供とポニーをはじめとする動物とのふれあい、工作・工芸の体験講座、敷地を横切る北浅川での川遊び等、自然との親しみを目的に市内外から親子連れを中心に年間10万人弱が訪れている施設である。 竣工から25年以上が経過しており、施設、特に設備機器を中心に老朽化が進み、施設改修の時期を迎えていることから、施設改修を契機に社会的ニーズに即した機能の充実を図り、本施設が観光施設及び地域交流拠点としての魅力を高めるため、リノベーションを予定している。
委員長所感	●森喜彦委員長 今後市内各地の公共施設で大規模改修や建て替えが進められていくことが予想される中で、カーボンニュートラルに向けた公共施設のあり方を考えるという視点をもって、リノベーションを控えた施設の運用実態を視察する目的で夕やけ小やけふれあいの里を視察した。視察を終えて委員からは、設備の運用や設備を環境配慮したものにするとともに、自然豊かな環境にある立地特性を活かし、施設の環境配慮が視覚的に伝わるようなものにすることや、自然や農林資源と触れ合うことで環境意識が向上していくようなプログラムを設けること、里山の適正管理の重要性が伝わるような見せ方など、多くの意見が挙がった。 今回は施設整備を考える一例として視察を実施したが、公共施設は立地や設置目的、施設管理者等の違いに加え、近年ではPFIで整備する手法などもあることから、そうした違いなども踏まえて調査研究を進めて参りたい。

委員所感

●川村奈緒美副委員長

環境配慮への取組の見える化は必要だと感じた。子どもの学習をはじめ、学生等が集まって意見交換できるような施設ができれば良いと考える。

また、残っている豊かな自然を守りながらも学べる環境や一定の期間だけでなく、合宿等行えるような環境ができれば良いと感じた。

人口の推移等、25 年前に開園した頃と状況が変わってきている中で集客を増やす方法や市内に限らず市外の方にも自慢できる施設として見直し、改修を進められるよう意見を呈していきたい。

●長谷川順子委員

八王子市ならではの自然豊かな環境で、安全に配慮した先進的な環境配慮型施設があれば、子どもたちも含めた市民の意識向上につながり、期待ができると思った。本市の公共施設は多数あり、既に小中学校などでは、太陽光の設置などに取り組んでいる中で、カーボンニュートラルに向けた公共施設のあり方として、夕やけ小やけふれあいの里も含め、取り組んでいる内容を目で見てすぐにぱっと分かるようなものを施設としても進めていかないといけないと思った。

●古里幸太郎委員

夕やけ小やけふれあいの里の周辺には自然環境があるため、ニュートラル化という面において、自然をいかに生かすかという部分と、建物という面では、ふれあい館をどういう施設に利活用していくかというところもポイントになると思った。

また広場においては、何でもできるような場所ではあるが、もう少し使い方を周知して、明確な意図の下使えるような場所になると良いと思った。

最後に、敷地内において、ハザードマップで土砂災害の警戒区域があり、今後、改修等手を入れるのであれば、その部分の見直しも含めて、市民にとって安全で、かつカーボンニュートラルに関しても達成できるような施設にできれば良いと思った。

●九鬼ともみ委員

夕やけ小やけふれあいの里については、再生エネルギーなど、もっと目に見えるようにやると良いと思っており、例えばバイオマスなど八王子市で取り組んでいるが、数が少ない。夕やけ小やけふれあいの里は山の中にあり、例えば間伐材を利用した足湯など、再生エネルギーの利用をもっと目に見えるような形にするのが良いと思った。

また、夕やけ小やけふれあいの里までの道が一本道であり、ゼロカーボンシティを推進していくためには、バスも含め、公共交通をうまく使うことが重要だと思っている。例えばバスを無料にし、家族連れの方がマイカーではなく、バス等公共交通を使うことで、渋滞の緩和へつなげるなど、工夫も必要だと思った。

●高橋剛委員

ハード面において、施設が古いというのはあるが、魅力を感じる部分は多く、うまく活用していく方法はたくさんあると思っている。例えば一般の方が来るような施設であれば、来場者にゼロカーボンについて、理解してもらえるようなブース等を設けるなど、コラボレーションしていくような可能性がある。

また、ソフト面においても、例えば子どもや学生など、様々な人に対して、環境配慮行動の周知などについて、所管事務調査のところでしっかりと考えていきたい。

●中島正寿委員

地元の学校や町会、周辺で活躍している団体等、様々活動をしており、そうした方々との連携をしっかりと視野に入れて、これから観光施設の磨き上げというものは考えていかなければならない。また、民間の持てる力を活用していくことが今後の施設のあり方を決めていくものと思った。

また、改修をするに当たり、地元住民や団体との調整、連携という意味でもデジタル・トランスフォーメーション（DX）を視野に入れて、観光施設の磨き上げを進めて欲しいと思う。

●及川賢一委員

夕やけ小やけふれあいの里は、もともとハード面において、限りなくゼロカーボンに近い、ものすごくエコな施設であり、これ以上ゼロカーボンしなくてもいいのではないかという部分もある一方で、もともと排出量が少ないのであれば、究極のゼロを目指すことができるかもしれないと感じた。使用している分だけ発電することや効率を高めるなど、本当にゼロというのを打ち出すことができるのではないか。

それに合わせて、ソフト面において、市民・観光客への啓発について、土地も多くあり、様々考えられると思っており、その点で視察予定である、とよたエコフルタウンの見て触れて学ぶことができるというのは参考になるのではないかと思う。

●福安徹委員

夕やけ小やけふれあいの里においては、子どもたちがただ遊ぶのではなく、平日は環境学習の場として、市内の子どもたちが利用できることや休日は遠出せずともここにこんないいところがあるというような施設を思い切ってつくり、集客につなげるほうが良いと思う。

いずれにしても、10年20年使えるような施設をきちんとつくることや地元住民が地元のお餅の作り方を子どもたちに見せてくれるとか、観光客の人が多きときには餅つき大会を行い、餅を振る舞うなど、都会ではなかなか体験できないような体験型の農園として使うことで、集客につながれば良いと思った。

夕やけ小やけふれあいの里へ向かう道路は広くなく、危ないと感じる部分もあるため、崖崩れとかがないよう、行政でもきちんと対応してもらい、魅力がある場所ということをみんなで認識して、どのように活用すれば、一番八王子

市のため、また、観光客の集客につながるのか真剣に考えて、みんなで知恵を出し合って進めれば良いと思った。

視察の様子

